

<オーラルヒストリー>

灰燼の中から

日 時 2010 年 9 月 16 日

会 場 愛知大学東京事務所

講師 浜本 昭郎(昭和 28 年旧経卒)

高井和伸(以下高井) 我々をつないで頂くキーパーソンとして、杉浦さんが中心でいろいろやつて頂いて、愛知大学創立何年ということをやりながらも、旧制の方々がやっぱり宝物であること、そしてまた創校の頃の学生の方々が宝物だということを自覚するようになりますて、これは聞き語りをしっかり行つていかなければと、その第 1 弾としてこういったこの証言で、学生達の証言で綴る創成期の愛知大学というのはこんなところから始まりました。そして、関東から始まって本部にあげ、本部がつくりだして、というふうに全国の卒業生たちの話を聞きました。それはそれとして一つテーマとしてやりましたが、より深い精神的な面、それぞれの皆さんのが、愛知大学で救われながらも、愛知大学でハンディを負って日本社会の大波小波に船を打ち出して行った苦労を、後輩に何らかの形で伝えなくてはいかんということになりますて。山本利久さんがあの頃、オーラルヒストリーという言葉の他に、もう一つ、ヒヤリングヒストリーを始めました。

山本利久(以下山本) 正式には、オーラルヒストリーというんですが、私はヒヤリングに重点をおいています。

高井 オーラルヒストリーだと、ヒヤリングヒストリーだとと言う言葉が横行し始めましてね、議論の中で、先だって最高裁判事やった人のね、ある追悼式を行つたんですが、オーラルヒストリーということで、六本木にある政策研究大学院大学で、矢口洪一氏、後藤田正晴氏が先輩達をヒヤリングして本にしているんですよ。それは、非売品だったんですが、あの市販されたものが近頃表舞台に出るようになつたりして。語つて頂

いたことが、歴史上の事実として定着されるようなことが流行りだしてきてます。これは、やわらかい言葉で、話し言葉で、いろいろ生の言葉で、ということで我々としては、こういう話を大学学長にもいいですよと奨め、学長とやつたりしてるうちに、我々としてとにかく聞き語りをやって、積み上げていって本に出すようにしようと、了解がついて、活字にしていくということで、いろんな余余曲折がありまして、本日ようやく語りべの会という運びになったのです。担当者として杉浦さん、宜しくお願ひします。

杉浦威志(以下杉浦) 今日は雨の中お忙しいございました。予てから 6 月頃からこの話は起きていたんですが、暑いとか忙しいとかで、やっと今日に至つたんです。浜本さんを口説いてですね。浜本さんは旧制予科 3 年、学部 3 年フルコースで 6 年。しかも浜本さんは私と同じ小金井に住んでいるので、時々会います。その時に是非愛知大学のかつての生活だとか、学問の場のいろんな研究だとか、友達とかの交流、それから仲間同士のその後の交流など、そういうことを一度話をして貰いたいということで、お願ひしました。こうして今日に至つたわけです。語り部、語りべ、というのはこれは、大変古代、日本の上代に朝廷に仕えて、古代伝承を暗証して語る一つの職業だった、一族だったわけです。非常に重い仕事だけれども、今日はね、仲間同士ですから、最初浜本さんからのレジュメを中心に、皆さんでフリーに語つて、語りべにしたいということで、進めたいと思います。宜しくお願ひいたします。時間は、2 時間位、最初の 40 分間は浜本さんのレジュメに従い、あとは皆さんから思い出

だとか、経験だとか語って頂ければと思います。

浜本昭郎(以下浜本) では、浜本昭郎(はまもとあきお)と申します。略歴から、1929年世界恐慌のひと月前ですね。昭和4年9月10日生まれ。81歳になりました。住所は、小金井市貫井南町で、杉浦さんがすぐ近くなんんですけど、小金井には愛大卒が杉浦さんと浅井さんと今さんと、そして私の4人がいます。それに隣の国立市に行きますとね、堀口福治郎さん(岐阜県出身)が住んでおりますから、割と三多摩には愛大の卒業生達がいます。それは、ともかく、出生地は、今は豊田市になっちゃったんですけど、愛知県碧海郡高岡村。先祖は徳川御殿医の医者系統と聞いております。殆ど東京世田谷での生活で、昭和20年5月25日の東京空襲で被災しました。東京大空襲は3月10日が有名なんですが、5月25日、いわゆる山の手空襲で、皇居、さつきあつた六本木、青山、一切焼けちゃってね。それまで旧制の都立中学4年までいたんですが、一家全焼し仕方なく8月15日終戦前に岡崎の叔母の家に疎開したわけなんですが、その3日後に岡崎空襲、またそこもやられちゃって。二度被災し、まったくの無一文になっちゃいましたね、母の実家高岡村に疎開し刈谷中学に転校した次第です。

こうして、東京には戻れなくなったことから、豊橋にできた大学の予科を受けたらと、刈谷中学の先輩で愛大の図書館長、神谷龍男さんを紹介され、それから、板倉鞆音予科教授のドイツ語の先生も刈中卒だということで、親や親戚たちが愛大の予科を勧めてくれましたので、受験しました。教科書もない、金もない、何もないという時だったけれど、愛大というのは人間的な温かみがありました。とにかく、大学の認可になったのが旧制の49番目とか聞いておりますけど。昭和21年当時、父親や叔父に聞いてみると、上海の同文書院、外地の大学の先生方と、こりや、すごい先生ばかり集まって、教授連がすごいよって、言ってました。名古屋大学は、医学部

ばかりで文系がなかったから、豊橋の愛大に入りました。私どもは名鉄の三河線知立駅のそばに家を買うことができたので、電車通学しました。当時名鉄も交通事情が悪いので、1時間に1本しかなく、途中停電したり、家に帰れないことがありましたが、がんばって通学しました。

旧制の6年間一緒だったのが、全国寮歌祭をやった、浅井琢朗さんです。年はちょっと上なんですけれども、彼は岡崎中学、私は刈谷中学だった。それで愛大の予科に入って3年間、それから法経学部3年、同じドイツ語をやっていたものですからよく知っているんですけどね。彼は、彼なりの秀才です。読売新聞社で活躍しました。最近では、上野文化会館音楽祭で会いました。彼はジーパン着てフリースタイル。由比さんと杉浦さんは別の方に座っているという感じでね。全然文化といつてもね、受け方が違うわけなんですね。やってることは違うなあ、そういうところが、愛大の一番いいところじゃないかとね。一致団結とか、そういうふうじゃなくてね、その時々を楽しく過ごしていく。やっぱり今でも酒が飲みたくなると、安いところがいいというかたちで行くんですよ。小金井でも安い所があるんでね、そこで、杉浦さんとバッタリ会ったりして、運が悪い、「語りべの会」を頼まれてしまいました。

親友というと、宮崎孝雄さんという農林中金に行つた方がいるんですよ。ちょっと学者風ですけどね。宮崎さんは生糸の寮生(思草寮と翠嵐寮があった)。後に愛大初の公開模擬裁判を主宰した。それに、原瀬速美さん(NTT)という方がドイツ語でね、神奈川県二宮の方に、住んでいますがねえ。その方々と在京三河人会というのをつくって、原宿の東郷会館で年2回位会い、広く交流を深めています。そのうち後輩の淀野敏男さんも仲間に引き込んでね。そんな、出会いというか愛大出身者も多い集まりです。

質問者 今でも、東郷会館でやっておられるのですか?

浜本 今も東郷会館でついこないだ、決算総会を6月にやったところでして、毎年2回はやりま

す。メンバーは130人ぐらい、だんだん減ってきてね、今は出席者30人ぐらい。愛大卒業生だけではなく三河出身の在京の方々が参加して、江戸の旧跡を尋ねて散策もしています。

話は戻りますけど、当時愛大に入学早々お金に困ってまして、奨学金を申請して僅かばかりだったけど、それで命をつなげてました。

質問者 その頃、奨学金はいくらでしたか？

浜本 そのころ、2100円でした。昭和22、23年当時で2100円。銀行の初任給が、1万円弱でした。最初は1800円だったんだけど、3年生から2100円になった。それは助かった。でも支給日は奨学金出る人のところに集まってきて、たかられちゃう。奨学金支給基準もきびしかった様で、簡単にはもらえないかった。もううには授業料が年額18000円だから、月掛け1500円。奨学金が2100円だから、学生が厚生課へ行って、授業料と相殺して600円もらった記憶がある。

愛大が創立された年（昭和21年）には、豊橋の町も戦災後の焼け野原で、駅舎も三角の壁しかなくて。昭和23年くらいまで残ってたんじゃないですかね。壊す手間もなかった。それから木造建ての豊栄デパートが昭和25年くらいに出来上がった。そんな時代に、海外からの引揚者が東海道線で豊橋を通る時に学生が学徒援護会で御接待をしたんです。これで愛大は有名にならんですね。学生が本気で引揚者、帰國者に援助の手を差し伸べた。本当に気持ちから出て来る御接待じゃあなかったのかな。愛大生が豊橋の駅で、超満員の乗客や希望を失ったどん底の人達を応援してたから。それはやっぱり予科の人達だったと思いますよ。立派な友達がいたなあと。今でいうボランティアかな。

それと同時に、今でも豊橋の市民公会堂っていうんですか、階段上がってちょっとローマ風の建物。市電が曲がるところ、あれがね、焼け残ったところで、豊橋文化協会が生まれた。

あの時の横田忍市長さんも立派だったんだと思うんですけど一流のものをやって、「豊橋は軍都から文化都市に変わろう」との掛け声のもとに、

東京や大阪、あるいは全国の文化人や芸術家を呼んだんです。でも実際に来た人達は豊橋へ来ると、ご飯が食べられると思ってたみたいで、東京じゃとても交響楽団の90人、100人が来たところで暮らせる所もないし、ホテルもないし。でも豊橋に来ればとにかく食べられる、芋でもおみやげも貰えるということで、交響楽団も来てくれました。ヴァイオリンの辻久子さん、諏訪根自子さん。それからピアノの高木東六さん、四谷文子さんの歌唱演奏会など、会場には立派なピアノもあったし、文化の普及としては恵まれた環境がありましたよ。前進座も来ました。

東京で流行のジャズよりも豊橋は堅かった。学生を見てても、あまりジャズなんかにかぶれなかった。やっぱり、クラシック、いい音楽に浸ったからこそ、今でも上野の文化祭に行くと、由比さんがいたり、杉浦さんや浅井さんがおられるんですよね。

このあいだも日比谷公会堂、この創建と私の生年が同じ昭和4年で、子供時代は父親に連れられて海軍軍楽隊の演奏会を聴きに行ったりしてましたが、その日比谷公会堂が今年80周年記念で、第九の演奏会がありました。戦時中焼け残った公会堂で、昭和20年6月何日かに、明日、戦地に赴く人達、明日の命がわからない人達が集まって、泣きながら合唱付き第九の演奏をしたそうです。それを再現しようという企画でした。

日比谷公会堂は、寮歌祭で愛大にも馴染みのある会場で、高井さんも浅井さんも、吼えていたというのが強い印象でした。先輩、同輩、後輩が逍遙歌を合唱するというのは、やっぱり学校の母校愛というのかな。他の旧制高校と同列、学力でも負けてないわけではないのだからと頑張って壇上に立っていたんじゃないのかな。そういう気持ちがね、私も予科、愛大の時のそのままの気持ちだと思うのですよね。たしかに運が悪くてね、私以上に運の悪い人もいたし、運のいい人もいるだろうけど、運まかせではなく、やっぱり自分の努力、愛大のたった400人、500人

の少ない生徒ではあったけれども、それなりにね、アジアに向って、或いは引き揚げて来たみんなも、戦争に協力したわけではないけれど、まあ一部宣伝もあってか、アジアの盟主にはなれる筈だったし、アジアでは我々がやらなかつたら、欧米にやられちゃうんだという、ある種の歴史の分岐点ですけれども、そういう純粋な気持ちであった時に敗戦してしまい、一夜にして夢つぶれ、引き揚げなくてはいけない、魂のもつていけない人々が愛大に集まって来たんだと思いますよ。それで官立とか国立の学校は、アメリカの進駐軍が軍関係の学生の入学者を制限してね。陸士、海兵の人達も行き場がないから、愛大の予科に来たと言っていました。愛大予科3年間、目も輝き、先生も立派だった。それに生徒もある面ではバンカラだったけれどもね。まあ、必死に勉強しましたね。今の体育系、サークルとかじやなくって、それぞれ切磋琢磨言葉そのままの生き様で本気になって日本再建に努力しなきゃいけないんだと、気魄を持っていました。今も持っていますけど、それが愛大の一番の個性かな。

おはようございますを略してオス、オスなんて言っていてね。知らなくてもオス、オスって言ってて。女子学生は貴重なもんですから、私は腫れものに触るみたいでオスも言わないでただ眺めてましたけれども。優秀な人達も2、3人いましたよ。それはまたあとで語りべの方からお話もあることでしょう。

私は、大体図書館に行っておりました。夏目漱石は東大の図書館に行って珍しいから借りてみようと手にした本にはすでに何かのしるしがあり、しるしがない本なんて一冊もないくらいと書かれていましたが、愛大の図書館もそうです。同文書院の蔵書もあり、大学としては、今も蔵書は貴重なものが多いんです。本なんて、行列しても買えなかつたり、予約したってなかなか手に入らない、『世界』なんて雑誌は買えないしね。『リーダースダイジェスト』という、今でいえば、新刊本をダイジェストしたアメリカの本があつたんで

すが、それをひと月に一度売り出すとね、私は豊橋から東京に行って神田で行列してね。三省堂の所なんか2廻りもして、10円で買って豊橋に帰ると、みんなが見せろ見せろと言ってね。岩波書店の『世界』っていう雑誌は今でも、古本屋ではいい値段がしているけど。『世界の潮流』は、誰が書いていたか、内容のレベルが高かつた。大衆雑誌の菊池寛が創始した『文藝春秋』は、今でも有名人の短文・評論が評判で、よく売れていたと聞いていたけどね。今、愛大卒の平松礼二画伯が表紙を毎号毎号よく描いていますよね。彼は車道の新校舎の大ホールにステンドグラスの日本画を寄贈されましたよ。新制卒ですけれども、東松照明さんは、岩波写真文庫に入社し、傑作の写真を連発し、一躍世界のトーマツになりました。愛大を卒業した人それぞれが、企業開拓でそれぞれの会社に入って行きましたよ。そういう意味で、卒業生は各地で活躍しています。話がそれましたが。そういうことで、当時本にも飢えていましたね。今、高校生の愛唱歌になっている「高校三年生」の図書館の匂いなんて、あんな歌みたいに、かっこいい形ではないですよ。古い兵舎の古い机椅子でしたが、図書館は良かったということです。まあ学生も良かった。全国から集まって来てね、卒業後も文通していたんですが、一人欠け、二人欠け、今では早く来いとあの世から誘われている。お前こんな野暮なこと喋るよりも、俺とこへ来いという友達の声が多くなって来た感じです。そうなるとやっぱり「語りべ」なのかな。語りべというと、残った者の恥晒しみたいで、好きではありません。それで、先程お目にかかった隣にいる会計検査院の岩城さんが、二度も電話をかけて来て、皆の前で喋るのだから、履歴書と学校の思い出くらい書いて来てねと言われました。困っちゃつて、自分で思ってもわからなかつたのですが、そいえば年金の記録があると思いそれを見ました。今、みなさんもそれぞれお持ちだと思いますが、年金の記録というのはすごいですね。卒業して、社会人になった昭和28年4月1日から

31年3月までは、銀行の五反田支店に勤務して、その後31年から36年3月まで上野支店にいたと。36年4月から38年の9月まで長野支店、善光寺の膝元に赴任したと記録が残っている。社会保険事務所が変わるたびに、記録されているんです。これにないのが併行して務めた従業員組合活動。企業内組合の執行委員に選ばれた時は、愛大だからそういうことに詳しいからなんてね。愛大事件があった。当時左翼のね、学生大会しかないのでですよ。授業の合間なんかにね、動議、議長なんてたちまちつるしあげが始まっちゃってね、動議どーぎなんて言ってね、よくやったからね。

今愛大で覚えているのが「それでですねえ」世界的風潮か、NHKの言葉か、「それでですねえ」。前田幸三がよく使っていた。「それでですねえ」というのは、愛大生が発祥じゃないかな。

参加者 言葉を大切にする演劇部にはそんな人はいなかったよ。演劇部には人形劇のパーク。四方晨さんがやっていた。岩井透さんはキャリア。あの人は高等商船だった。帰って来て名古屋工専に入り、それで愛大が出来たから入って来たんだけど。

浜本 それから「633 制」となり、学制ががらっと変わりました。全国一律の改革でした。検討の余地もなく、すぐに変更だと、昭和23年に新制に変わるという形でね。例えば昭和6年に生まれた弟和郎は、理系だったんですが、いつの間にか刈谷中学っていうのが、刈谷高校に変わっていましたね、刈谷高校をカリコウって言ってて、そのカリコウっていうのが、当時冒険団吉といつてもあまり知らないと思いますが、南方に侵略の漫画、冒険団吉の中に鼠がいたんだけど、綽名がカリコウということで、変な感じだった。弟は新制にあって名工大に入学しました。そうすると、おかしいもので、こっちは旧制の予科3年で、白線帽をかぶっているというのに、弟の方が新制の1期生で角帽になっているんだよね。角帽は、まだ当時国立はどこも同じ徽章で、今だと銀杏

をつけたりしているんですが、当時まだそんなアイデアもないし、なにもないから、やっと作った角帽で東大生かなんかわかんないけれど威張っちゃっているんだ、弟の方が。当時まだ学生が少ないので知立の町でも、愛大に行くのも一人か二人ぐらいしかいないものだから、町で白線帽は目立った。

今、この部屋のそこに置いてある芭葉の高下駄(註:実際に置いてあるのは京城帝大予科の高下駄)ああいう高下駄は知立で作ってもらった。冬でも素足で履き、白い鼻緒に、生意気に「真」「善」「美」「聖」まで書き入れて(註:愛知大学の寮歌4番の歌詞にもこれらの言葉が入っている)、名鉄に乗ったり階段を二段跳びで降りていったりしてね、思い出すねえ。でも、白線帽でマントは買えなかった。というのは、売っていなかつたから。先輩のものを受け継ぐ黒マントも無かつた。愛大の配給があって、抽選かなんかで、今でいう白いガラ紗、下手な織物でもなんでも作っちゃえばね。豊田織機の機織物はちゃんとしていた。ガチャマン(註:織機がガチャッと動けば万と儲かる成り金のこと)の息子も通っていた。

白線帽でもオーバーでいいよと言われて作ってもらった。似合わないけれどもね。それで、大阪へ遊びに行ったら、街頭写真屋というのが居てね、弟と歩いている時に、心斎橋のところでパシャっと街頭写真を撮られて、お金をよこせって。だって写真機もないし、フィルムもないし、そういうのが記念でありますし、それでお金を払って手に入れた。

ほんと、戦後なにもない、無いことづくめの時代だったね。だから、通学生で名鉄で名古屋へ帰る人も、知立に立ち寄れよという形で、うちに来てもらった。おふくろが明日の分の米を炊いて出したら、遠慮しながらも腹いっぱい食べて帰ったね。そういう形で、名古屋の人とも、通学の友情というのかな、そんなのが出来たですね。それから、新豊橋からの渥美線。あれが時刻通りなかなか出ないものですから。豊橋バスというのが初めてできたの。それが民生ディーゼル。

みんな軍需関係事業がね、みんなみんせい民生と言えばバスすると思ってね、それがはやり言葉ですよ。今でも残っているかも知れない。

質問者 民生ディーゼルと言えば、乗せてくれたということですか。

浜本 いやいや、民生ディーゼルのバスが出来てね、珍しいのは従来のボンネットバスとは違つて、エンジンを今の運転手の脇に置くという形。今では普通だけれども、ボディが四角いバスで、それに愛大生が乗っかるのにやつとこでね、そうすると愛大前に止まってくれた。

質問者 旧軍から払い下げた品物は民生だから大丈夫と言っていたんですか。

浜本 そういうのがあったかも知れない。

質問者 そういうのが昭和 30 年代まであったの？

浜本 あった。だから何でも民生民生という言葉を使えば通用する。贅沢なものですよ。飛行機を作るジュラルミンでお釜やお鍋を作った。今豊田紡なんていのも民生紡だったのね。民生紡だって、昭和 35 年頃豊田紡織に変わっているんですね。だから愛大の予科時代というのはね、言葉も世相もアプレゲールを打ち出して来るわけなんですよ。ガチャマン紡。インフレでやっているから、機織りの機械がガッチャンガッチャンというたびに、お札が入って来る。後に尺祭りなんていのもやっているんだ。進駐軍の図柄の入った 10 円札を積み上げて 1 尺(30cm)。インフレだからね。集まって来るとね、俺も金持になつた気分でね、尺祭りだとか言ってね。來い来いって言ってね、濁酒なんか飲まれて、お祝いをする。

質問者 それはどこでやつたの？ 僕は経験ない。

浜本 それは埼玉県で。銀行に入ってから。

質問者 最初は豊橋支店に入ったのですか。

浜本 豊橋支店には入らない。最初に入ったのは昭和 28 年五反田支店。まだ五反田の駅周辺は、三業地区(註:今はこの言葉はない。赤線、青線地区のこと)で。五反田支店には、法経学

部一期生の先輩、中山文彦さんがおられ、よく御指導を頂いた。もと潜水艦乗りの士官だった。

質問者 浜本さんが予科にお入りになった時は、何人いらしたのですか？

浜本 あの時 200 人ちょっとですね。ドイツ語とフランス語と中国語 2 クラスでした。

参加者 その時は僕らのクラスと浜本さんのクラスと。僕らは新制にいたわけですよ。第二外語はドイツ語で、当時今では考えられない 1 週間で 18 時間ぐらい。由比さんなんて、ペラペラと喋る。

参加者 当時英語の先生で、若江得行さんというのがいた。英語が素晴らしいよ。予科教授ですね、GHQが来た時は愛大的通訳をやられた。

参加者 女子学生は、とにかく一番前に座られた。

参加者 ドイツ語は板倉さん。今のお会堂の奥の八丁通りとかいうところに、板倉先生や大石岩雄先生だとかみんなおられた。そこへ遊びに行ってました。

参加者 板倉先生に話に行くよりきれいな奥さんが大事にしてくれるからね。

参加者 その時生徒が続々と来るから奥さんは大変だったよね。

参加者 息子さんは立派な経営者になったけどね。その時ドイツ語が出来なくてね。頼みに行つて勉強したの。板倉先生厳しいから、落第するんだ。ポンポンと。

参加者 板倉さんのドイツ語は厳しくて有名だった。ドイツ語の原語の野バラの歌を教わった。

参加者 その頃、ドイツ語の先生で佐野えんめいさんはいらっしゃいましたか？その人がね、一橋の佐野学長の娘さんで、そのご縁があって、ご恩返しで本間さんが呼んだんだという話を聞いたことがあるんですよ。「月が出た出た月が出た さのえんめい さのえんめい」という歌があつたほど有名だった。

浜本 僕はちょっと知らないなあ。

質問者 今の学生にどういうことを望れます

か？

浜本 難しいことですね。図書館の脇に建っている「自由受難の鐘」を知つてもらいたい。

質問者 愛知大学にどのようなことを提言したらよいのでしょうか？

浜本 私学はやっぱり建学の精神を掲げて進むことですね。「世界文化と平和への貢献」、「国際的教養と視野を持った人材の育成」、「地域社会への貢献」、これを具現化する教育でしょうね。我々が慕っていたようにね。教授がいいという形でね。やっぱり学ぶという気持ちがあつたら、いい先生の所に行こうと言いますよね。立教大学の先生をやっていた山本二三丸という教授も当時何時間もかけて講義に来てくださった。二三丸先生の恐慌論の講義はね、愛大の学生はしっかり聴くとね。東京と愛大の両方を比べながら通つてみれば、学生の気構えが全然違うということを語っていましたよね。

参加者 あの先生の試験はね、何行で書けといふもので。落第がすごく多くて、掲示板に貼るわけよ。落第した人のを掲示板に。

参加者 恐慌論の山本二三丸さんでしょ？ 金融貨幣論は林要教授。フィルハーディングの資本論。あの人は優がないと推薦してくれないのよ。例えば、どこどこの会社やどこどこの銀行は優がいくつだとか、電力会社は優が30だとか、そういう相場があったんだよ。優がないとね、推薦してくれなかつた。だからどうしたってある程度優を取らなきやいかんかった。だんだんそういう風になって来てたね。僕らの頃は、就職試験を受けるランキング。そういうので、一斉に就職試験を受ける試験をやつたわけですよ。学内選考するために1番から450番までランク付けされて、それで、就職課に行って応募する時にそれを見ながら上の方の学生を大学が選んで推薦する。だから1つ落ちて来ないと次推薦してくれないというやり方だったんですよ。今東京でそういう企業に愛大のあれだっていって持って行っても、一人っ子が多いから、東京に行くより、豊橋がいいなんていうような贅沢な学生がいた

りしてね。企業に入ってから、企業の人事部について、名古屋支店に行って採用試験やつたわけよね。よその大学の生徒だったかな。「私は長男じゃないから、どこへ転勤になつてもいいです。是非採つて下さい」と言った。殆どの学生は、地元企業優先にする風潮です。我々の時代のような天下国家ということよりも、先ず自分のね、生活の安定の方が大事だと。我々の時はそういうことはなかつたね。だから今でこそ、大企業とかいうけど、戦後早々は大企業自身がまだ先行きがわからないから、たまたま大きいという形だったからね。それで採つて行ったから、合格した所で決まる。とにかく衣食住というけどね、その時代が昭和28年位から31、32年までは確かに衣料関係がガチャマンジやあないけど、その方面が金持ちになつていつた。その後は、食の関係ね、食品、製菓会社など食を扱つているのがあって、やがて住宅になってきたら今度は土地が上ってきた。

質問者 ところで、ゼミはどこにいらしたの？

浜本 ゼミは小幡さん。元台北帝大の小幡清金教授。財政学の権威。何かのきっかけで、ゼミに来ないかと。

質問者 小幡さんは何処に住んでおられたんですか？

浜本 市内前田南町の山のところ。あそこのお宅にも行つたりしてね、教わつて居る内にね、財政学だけれどもね、国民所得の事を勉強するといいよと言って、国民所得の本がこれこれこういう風にあるからね、丸暗記して持つてきちゃだめだよ、自分のものにして持つてくれれば、卒論になるよと言われて卒論の指導を受けたんですよ。だから国民所得論という形でね。後になって愛大生の甥っ子なんかが、叔父さんの卒業論文まだとつてあるよ。図書館にあるよ。僕借りて読んだよって。愛大は丁重にとつておいてくれるんだねえ。

参加者 とつておいてくれたんですか。僕らの時は大石先生が、とつておいてくれたけどね。ある時、場所が無くなつたから配ると言つて配られた

んですが、卒論がなかったんですよ。君は卒論を出さなかつたのではないかと言われたんですけど、自分で「僕の卒論は優秀だから誰か持つて行つたんだ」と言った。大石先生は一橋大学から来て優秀だと思うけれど、マルクス経済学、近代経済学と愛大にはいろいろあるから。その頃、近代経済学は誰がやっていたのかな?

参加者 近代経済学は有名な岡崎教授。後ほど事件を起こして辞任した。ケインズの講義は名古屋大学の塩野谷九十九(つくも)教授は、これから授業を受ける奴で数学が出来ない奴は聴かなくてもいい。それだけ数学が大事だった。ケインズ研究の大家だった。

質問者 小幡ゼミには何人いらしたの? 当時どのように勉強されていたんですか?

浜本 30人ぐらいです。山本純幹さん(玉塚証券)、船山さん(名古屋銀行)、五藤豊さん(丸栄、後に三越名古屋社長)、内藤悦郎さん(東海銀行)、一諸に入行した恩田直人さん(現三井住友銀行)、不動産鑑定士の難しいとき銀行で第一号の資格を取得した。やはりゼミ仲間は一番親しかったね。30人でテキストを輪読する場合もあるし、それについて論評もするし、どういう風に考えて捉えていくのか、自分はこのように考えたと披瀝する。黙っていたら評価されないから、なんか喋らないといけない。それから自分の研究論文を発表した後では、みんなから質問とか意見とかでつるしあげになるわけよ。こんな形のゼミだったね。時間も1時間半90分位だった。

参加者 大学生活で何が重要かというとゼミ生活。ところが今はゼミが無いんだそうです。ゼミという単位がなくてどうやって勉強しとるのかな。ゼミが無くて卒論が無い、こんなものが大学生活か。多分理由はね、マスプロ化しちゃって、2、30人の単位でゼミを構成していたら、教員の数が足りない。今の学生の4年間の学生生活がいかに薄っぺらいか。このままではもったいないと思う。愛大的規模が丁度その境目にいる。

参加者 愛大が立派だなと思ったのはついこないだのことですが、新司法試験の結果を注目す

る中、朝日新聞がパーセンテージでとってくれたから早稲田より上に出た。当時のポジションがそれくらいの感じだったかな。

参加者 今回はあんまり良くなかったのですが、1位慶應、2位中央、3位早稲田、4位愛大だった。

浜本 旧制高等学校を中心とした全国寮歌祭は官学のイメージが強い。徳川幕府300年、三河武士は兵隊でも強かつたんだけれど、今の竜馬伝のとおり薩長の時代到来、藩閥が強い中には冷や飯を食った人達や連中がいてそれで維新だからと反幕倒幕に。新政府は一高東大はしようがない。東京だから。どこに気を使うか、伊達藩に気を使って仙台に二高を持って行く、それから漸く京都に三高を、加賀百万石の金沢に四高を造らないといけない。赤門は東大に。そうすると熊本五高、六高は岡山だ。造士館七高は鹿児島へ持って行き、最後は尾張名古屋の八高だと、いやでも名古屋を無視する訳には行かない。名古屋の人は経済的なことが中心だから学問的なことは後でもいいんだと。大阪はなおそれだね。だから大阪には無い。

思うんだけど、東京の人と名古屋の人がね、たまには、東京に出て来いろいろ意見交換する機会を作つてもいいんじゃないかという気もするんだけど。もっとフランクにね。豊橋の夏目正雄さんは羽織袴で上京して來た。

参加者 刈谷中学卒で、倉田俊介さんという同文書院卒の滝友会員、愛大をうんと応援してくれております。横浜に住んでおられるんですよ。倉田さんはね。いつもゴルフに滝友会と言つてね、同文書院の主体としたゴルフ会でも現在は、殆ど愛大卒業生がメンバーですけれども、それにその80何歳の人が来るのですよ。小崎さん。ルーマニア大使だったですか。小崎さんと倉田さんとそれからロサンゼルスにいてエイジショットを500回やったと言う。今520、30回ですよ。今年も来ますからね。高階(たかはし)さんとこの4人がね、同文書院の同期なんですよ。86歳か7歳。立派だよね。応援してくれます。岡崎出

身の弁護士ロースクール出身のね、鈴木てつひろ君。やっぱり徳川さんの息吹を継いでいるから、健康です。

浜本 さて、「633 制」の学制改革がどんどん進んで昭和 25 年には殆どの大学が新制に切り替わった。新制大学は、廃墟の校舎を建て直す意味もあって、定員を一举に拡げちゃったんだよね。各都道府県の各市に国立、公立、私立の学校が乱立した。評論家大宅壯一がいみじくも名付けた駄弁大学。愛大の旧制予科 3 年を修了した人は、東京、関西の有名大学の新制 3 年生に編入出来ることになった。その頃には、食糧事情も何も落ち着いて来たから、愛大のいいところが慶応、早稲田、上智、関西方面へ行っちゃった。240 人予科に入りましたが、それの人達は何処に行ったか分からぬ。愛大も新制になり定員も一気に増え、旧制の方が少なく新制の方が多いなくなった。まずその頃は旧制新制が分かれていたし、校章も愛大の大の字を短い棒と長い棒とで新旧を区別した。角帽を被っていても旧制と新制を区別していたのは愛大くらいでね、他の大学なんてさっさと新制に切り替えちゃった。切り替えると 3 年生だから翌年度には卒業でしょ。就職先を先に探っちゃって、あれと言う感じ。昭和 28 年は更に旧制と新制が同時卒業で大変な就職難でした。入社すると給料は旧制の方が 1000 円位高かったです。

愛大のこれから道は厳しい。財政上の問題もありますが、ささしまの新キャンパスに期待をかけ、岐阜、三重からも通つて来るようにならね。これから始まる少子化対策や大学間競争には積極的なコラボレーションを考えなくてはいけない。それには、東京と名古屋を結ぶ愛大東京事務所の充実も必要。幸いここ霞が関のビル、霞山会の好適地にある。

高井 そう、このスペースは迎賓館として使わなければならん。絶対にここは潰しちゃいかん。

浜本 各地方大学もいわゆるテナントショップを持っているんだ。何をサービスすればいいのか、高井さんに期待を懸けている。何処へ行つても

大声出しているのは、みんなが思っていることを代表して言つていいわけ。前向きのことを大学の評議委員会で決めてもらって、進めてほしい。

参加者 そうだよね。新幹線から見えるだけでは駄目だものね。

参加者 愛大の目標命題はこれから果たす社会とは何なんかということだね。先程、アジアの盟主という言葉がありました。日本がよその国より先行して、いい面でアジアへ良い人材を安定供給するという様な大学であるということが一つの命題かな。

質問者 今愛大へ中国から留学生何人位来てるの？

参加者 でつかい数字なんですよ。300 人以上来ている。それでね、今、愛知大学と一橋大学が組んでね、留学生が日本から帰つて行った後、どういう風に現地で効果を挙げているか、そういう事を調べるプロジェクトが出来ております、文部科学省から補助金を貰っているということでね、愛大らしい仕事をやっています。

浜本 ささしまライブ 24 地区の新名古屋キャンパスも 2012 年 4 月にオープンする。隣接する JICA 中部(国際協力機構)や名古屋国際センターと連携プロジェクトを推進するなど、国際社会を見据えた新しい学びを展開して欲しいですね。「世界の知、ここに響き合う」のテーマの通りですね。

高井 第一回語りべの会で、もう精神的にですね、頭の脳みそが揉まれたような気がします。これを立ち直させるにはどうしたらいいのかという感じと、まあ何も間違つてしている心算はないといつておんなんじ、やはり一証人の話を聞きますと、何もなかつた時代の、そのすとんと真っすぐに向つているその姿が、非常に何物にもかえがたい今日を築き上げたものだと理解しました。ありがとうございました。